

# FD NEWS

No.14 2005年10月10日

摂南大学 FD 委員会

〒572-8508 寝屋川市池田中町 17-8

TEL: 072-839-9106

E-mail: kyomu@ofc.setsunan.ac.jp

## 摂南大学

### 中期目標が定められて・・・

就職部長 眞砂泰寛

本学では、一昨年から就職部が庶務担当をさせていただいているCD委員会の答申を受けて、就職部から「キャリア形成支援教育に関する事項を分掌する組織作り」を部長会に提案し、どのような組織作りを行うかの検討を開始することが決定されています。教職員の皆様の積極的な議論参加をお願いしたいと考えております。

さて先般、学園の業務改革推進委員会において、学園の建学の精神や各学校の教育の理念の再構築が行われました。更に、中期目標が定められ、摂南大学についても、重点的に取り組むべき課題が明確に示されました。

中期目標は達成時期を二期に分けられており、次のとおりとなっています。

2010年までの目標：「課題を解決することのできる明るく社交性の高い人材を育成している大学として独自性が広く認知されている大学」

2022年までの目標：「課題を解決できる専門職業人を輩出することによって、関西の企業・行政から最高の評価を得る大学」

1998年に大学審議会が求めた「競争的環境の中で個性輝く大学」として、本学が示すべき「明確な個性」を明らかにしたものと思います。これにより、今までは、教職員の各々が夫々の考えにより、バラバラな動きをしていたものを一点集中的に協力する努力目標を持つ事になりました。学園全体が各々の努力目標を明確にした今後は、明確な到達目標がないままの活動に決別し、中期目標の実現に全力を傾けて集中することが求められることになったと理解しなければなりません。しかし、どのようにして目標を達成するか(戦略)とどのようにして目標に到達するか(戦術)は、具体的に成っていません。

従来、FD委員会は教育の方法(戦術)を考えてこられました。他方CD委員会ではキャリア形成支援教育のあり方(戦略)を考えていただいております。冒頭の提案がなされています。今後は、これらが一つの意志の元に有機的な活動をすることを求められるようになったのではないのでしょうか。

## 2005 年度前期 「学生による授業アンケート」実施結果

### 実施状況

2005 年度の学生による前期授業アンケートが、6 月 24 日（金）～7 月 7 日（木）の 2 週間にわたって実施された。今回（2005 年度前期）の授業アンケートが昨年度と異なる点は、授業アンケートの実施対象を教員のコード番号の末尾が奇数である教員の担当科目としたことである。なお、後期は、逆にコード番号末尾が偶数の教員<sup>注1)</sup>が担当する科目を対象とすることから 2 年間をかけて全科目のアンケートが行われることになる。つまり、今回からその実施科目数、参加教員とも従来の前期のアンケートと比べてデータ数がほぼ半分になったことになる。これは、教員及び学生の負担減とマンネリ化防止のためにとられたものである。

今回（2005 前）<sup>注2)</sup>の授業アンケート参加教員比率は 100%（2004 前が 99.7%、2003 前 99.4%）であった。アンケート対象授業科目数は 658 科目。これは従来の授業科目数（2004 前 1,202 科目、2003 前 1,228 科目）のほぼ半分である。回答率は 64.9%（2004 前 64.3%、2003 前 60.6%）であった。回答者延人数は従来のほぼ半分であるが、回答率は、2004 年度前期、2003 年度前期と比べて僅かであるが数値の上昇を認めることができる。今回のデータ数半減の影響がどのような影響を及ぼすかは今後の経過を待たねばならないが、回答率は授業の出席状況を現す指標でもあり、この数値の僅かながらの増加は、若干ながらも出席率の高まりを示すものである。なお、今回のアンケートでは、教員の参加率が 100%であったが、これは今回のアンケート実施方法の変更によるものである。

注 1...なお、奇数番号の教員も希望があれば実施できる。

注 2...本文中では、必要に応じて 2005 年度前期を 2005 前、2004 年度前期を 2004 前、2003 年度前期を 2003 前と略記している。

### アンケート結果概要

全体の評価の最小値・最大値・平均値を表 1 に示す。今回は、質問項目が 6 項目となって前期としては 2 回目、授業アンケート参加人数が半分となってはじめての授業アンケートである。参加人数が、ほぼ半分と少なくなったことでこれまでの継続性の維持とアンケートの精度の低下が危惧されるところであるが、これについては今後の経過を待たねばならない。本アンケートの結果は、次の通りである。表のうち、{ }内の数値は 2004 年度前期、( )内の数値は 2004 年度後期、[ ]内は 2003 年度前期の数値を表している。

## - 1 学生の評価

表1より、6つの質問項目の平均値は2004年度前期の実施結果のものと比較すると、A1「出席状況(学生申告)」、A2「学生の授業への意欲度」、A6「授業の満足度」の項目が、0.02～0.03ポイント下がっており、一方、A3「質問や疑問への対応」、A4「授業内容を深める工夫」、A5「教員の話し方」等の教員の授業改善に関する項目については、逆に、各々0.03ポイント上っている。また、これらを2003年度前期の数値と比較すると、質問項目6つの全てで0.01～0.1ポイント上昇をみることができる。こうした評価値の上昇は、教員の授業改善に対する努力の結果を示しているように思われる。

相関係数の結果については、学生の満足度は、A5の「教員の話し方」との相関が最も高く(0.81)また、A3「質問や疑問への対応」、A4「授業内容を深める工夫」の満足度との相関係数(A3・0.74、A4-0.80)も高い。各質問項目と満足度との相関係数は、2003年度前期、2004年度前期、今回の2005年前期と総じて数値が上昇してきており、各々の項目と満足度との関係がより密接になってきていることがわかる。なお、A1の「出席状況(学生申告)」と満足度との相関は認められない。

表1 各質問項目に対する評価の最小値、最大値、平均値<sup>1)</sup>と満足度との相関

問	項目	最小値	最大値	平均値	相関係数 <sup>2)</sup>
A1	出席状況(学生申告)	4.27{4.34}(4.18)[4.13]	4.66{4.67}(4.59)[4.64]	4.47{4.49}(4.39)[4.37]	0.14{0.14}(0.14)[0.12]
A2	学生の授業への意欲度	3.64{3.69}(3.75)[3.59]	3.94{3.98}(4.04)[3.86]	3.8{3.83}(3.88)[3.70]	0.62{0.60}(0.62)[0.53]
A3	質問や疑問への対応	3.61{3.64}(3.73)[3.62]	3.96{3.99}(4.1)[3.88]	3.78{3.75}(3.87)[3.77]	0.74{0.72}(0.74)[0.61]
A4	理解を深める工夫	3.52{3.56}(3.64)[3.4]	3.83{3.91}(4.03)[3.71]	3.69{3.66}(3.78)[3.62]	0.80{0.78}(0.80)[0.69]
A5	教員の話し方の明瞭度	3.47{3.47}(3.54)[3.33]	3.78{3.89}(4.02)[3.68]	3.62{3.59}(3.72)[3.55]	0.81{0.81}(0.81)[0.77]
A6	学生の満足度	3.47{3.54}(3.62)[3.29]	3.78{3.93}(4.04)[3.68]	3.62{3.65}(3.77)[3.52]	-

注1) { }内は2004年度前期の数値、( )内の数値は2004年度後期の数値、[ ]内は2003年前期の数値を示す。

注2) A6「学生の満足度」との相関係数。

## - 2 学生からの要望等

アンケート用紙の自由記述欄に記載された内容について、教育環境改善、授業改善および福利厚生などの生活改善の項目に分類して以下に示す。

### - 2 - 1 教育環境改善

教育環境については2003前、2004前と同様に、教室等の空調設備の改善、パソコンやプロジェクターの設置・改善などを要望する意見が多く寄せられた。冷房の管理(夏

季に効き過ぎている)、 備え付けのプロジェクターが古いため取替要、 黒板の塗りなおしなど教室の整備、 ビデオ教材利用の希望。

#### - 2 - 2 授業改善

授業については、授業方法や板書に対する工夫を求めるなどの意見等が寄せられた。板書が多い、板書が速いなどの理由で授業についていけない、大きな声で話してほしい、授業中に私語などで騒がしい学生には注意をしてほしい、板書の文字を見やすくしてほしいなど。

#### - 2 - 3 福利厚生・生活改善

本項目に該当する要望等は次のとおりであった。トイレの改善、グラウンドの整備(既に着手)、食堂の改善(メニューの取替、自販機の増設など)、日曜、深夜の図書室(学習室)の利用の希望、事務室の利用時間の改善(昼休みの利用時間の延長)など。

### アンケート結果の分析

#### - 1 実施状況・結果

学生の授業の満足度(質問項目 A6)と諸要因との関係について以下に示す(1)~(7)の項目について調査・検討した。

##### (1) 履修登録者数と満足度との関係

学部・学科ごとにばらつきがあるものの履修登録者数が増加するにつれて満足度は低くなる傾向がある(20人未満の履修登録者の平均満足度は4.22と最も高い)。ただ、L科140人以上の履修登録者の授業、A科の100-120人授業、Y部の160-180人の履修登録者で授業満足度が高くなっている(4.0以上)。逆に、今回、A科で20人未満の履修登録者のある授業の満足度が、2.83と最低を示した。全体として、2004年度前期の満足度とほぼ同程度の値を示している。授業の満足度は履修登録者数の多寡を要因とするものあくまでも授業内容、進め方等にあるのかもしれない。今後の経過をみる必要がある。

##### (2) 教員年齢と満足度との関係

教員年齢を「5歳ずつ」に分けて10段階で調査をした。その結果、概ね教員年齢が高いほど満足度は低い値を示している(2004前、2003前と同じ傾向を示す)。満足度が最も高いのは「30歳未満」であり4.02(2004前は4.05)である。また、最も低いのは、「60歳以上65歳未満」の3.28(2004前は60-65歳で3.34であり、2003前は70歳以上の3.27)であった。

### (3) 職階と満足度との関係

本学の専任教員に限定し、職階を「教授」、「助教授」および「講師」の3区分に分類し満足度の違いを調査した。その結果、満足度は「教授」3.54(2004前 3.55、2003前 3.38)、「助教授」3.80(2004前 3.66、2003前 3.57)、「講師」3.95(2004前 4.09、2003前 3.75)の順で高く、職階が上がるにつれて満足度が下がっている。

### (4) 授業時限と満足度との関係

授業時間を「1限」から「5限」に分けて調査した結果、学部、学科により満足度の高い時限は異なっているものの、2005年前期は「2限」の満足度が最も高い(2004前、2003前は、いずれも「5限」であった)。しかし、「1限」～「5限」の満足度は、3.64～3.73(2004前は 3.5～3.87)の間に分布しており時限により満足度に大きな違いはない。

### (5) 選択・必修科目と満足度との関係

「選択科目」と「必修科目」(含む選択必修)に分類した結果、満足度の平均は「選択科目」で3.64(2004前 3.60、2003前 3.49)、「必修科目」が3.82(2004前 3.81、2003前 3.65)であり、「必修科目」が「選択科目」を平均値では上回っている。これは従来と同じ傾向を示している。

### (6) 分野別教科と満足度との関係

教科の分野を「専門」、「専門関連」、「基礎」、「教養」および「教職」の5分野に分けて調査した結果、「教職」の満足度が最も高く4.2であった。しかし、回答者数は今回も96人と極端に少ない上での評価値であることに留意すべきである。また、「専門関連」の満足度が3.42と最も低い。これも同じ傾向である(2004前 3.41、2003前 3.22)。

### (7) 出席状況(学生申告)と満足度との関係

2004前と同様に、出席状況(学生申告)と授業の満足度との間には関連性が認められなかった。

## - 2 まとめ

学生による授業の満足度と各質問項目との関係について、全体として、2004年度前期、2003年度前期と同様な傾向が示された。以下に要約する。

全体として、履修登録者数が少ないほど満足度を高く示す傾向がある。

概ね、教員年齢が増すほど、また職階が高くなるほど満足度は下がる傾向があるがそれほど顕著なものではない。

2005 年度前期は「2 限」の満足度が最も高いが各授業時限にそれほどの差異はない。概ね、選択科目より必修科目で満足度は高くなっている。

科目分類別では、教職の満足度が最も高く、専門関連科目が低い満足度を示す。

#### おわりに

今回のアンケートでは、教員と学生の負担減、授業評価のマンネリ化を考慮して実施科目数、参加教員数とも従来のアンケートと比べてほぼ半分になったが、上述のごとく全体的に 2004 度とあまり変わらない傾向を示す集計結果となった。学生の評価をみると、6 つの質問項目の平均値は、全てにおいて 0.01～0.1 ポイント上昇をみることができる。こうした評価値の上昇は、教員の授業改善に対する努力の結果を示しているように思われる。また、学生からの要望については、教室の整備、教育機器の整備、トイレの整備、食堂の充実化など 2004 前とほぼ同様のものが挙げられている。

また、学生による授業の満足度と各質問項目の関係では、全体として、履修登録者数が少ないほど満足度を高く示す傾向がある。概ね、教員年齢が増すにしたがい、また職階が高くなるほど満足度は下がる傾向を示すもののそれほど顕著なものではない。2005 年度前期は「2 限」の満足度が最も高いが各授業時限にそれほどの差異はない。選択科目より必修科目で満足度は高くなっている。分類別満足度では、教職科目が高く、専門関連科目が低い。いずれも前回（2004 前）、前々回（2003 前）と同じ傾向を示している。今後も各学部・学科での FD 活動がさらに活発化されるとともに、収集されたアンケートデータは早期に学部・学科の FD 委員会と連携して各教員にフィードバックされ、さらなる授業改善が図られることが望まれる。

（FD 委員 紙 博文、牧野幸志）

## 都市環境システム工学科の JABEE への取り組みその後

都市環境システム工学科教授 頭井 洋

C 科では、2004 年度以降の入学生より、都市環境システム総合コースを設け、既設の 2 コース（建設システムと環境計画システム）よりもかなり厳しいカリキュラムのもとで、JABEE 審査をクリアできる教育プログラムを開始している。その経緯や意義については、FD ニュース No.3（2002.12）で澤井教授がすでに報告されている。本文では、その後の取り組みについて報告する。

JABEE（日本技術者教育認定機構）による教育プログラム認定は修了生の技術士 1 次審査合格（申請により技術士補に認定）と関係付けられがちであるが、それが本来の目的ではない（私も以前は技術士補資格を第一義と考えていた）。JABEE 認定・審査の目的は、大学の教育レベルの向上にあり、教育プログラム認定を通じて学生中心の教育システムへと改善することに主眼がある。個性・独自性を発揮できる教育プログラムであるかどうか重要でその内容が高度であるかどうかは社会が評価する（JABEE は設定された目標を達成する教育システムが整備されていることを認定する）。JABEE 認定への審査受審を通じて、C 科が実施しているすべてのコースの教育内容をより充実したものにすることに留意しながら準備を進めている。これまでに実施してきた主な内容は、以下のとおりである。

都市環境システム総合コースの教育目標の設定（9 項目）、特に重要な基礎をなす専門 7 科目について総合コースの学生のみを対象とした独自授業の開設（2005 年 4 月より開始）、総合コースの必須・選択必須科目の設定、JABEE が要求する教育目標に対応する新科目を開設（技術者倫理など 2004 年 4 月より開始）、各教科の到達目標をシラバスに明示、カリキュラムと学習・教育目標の対応関係を示す表の作成、学科内の意思決定機関である教室会議の配布資料や議事録をはじめ日常の教育活動の記録をドキュメントとして残すなどである。また、C 科のホームページ（HP）に各コースの教育目標を掲載するため、各コースの教育目標を見直すとともに、カリキュラムと学習・教育目標の対応関係を示す表も見直した。そして、2005 年 9 月に、C 科の HP に各コースの教育目標を掲載した。現在、検討している主な課題は、学習保証時間（教員の教授・指導のもとに行った学習時間）の計算方法、試験問題の出題方法と評価方法など学習・教育目標の達成度の評価方法、外部評価の手始めとして卒業研究発表会の外部委員による評価、教育面での教員の貢献度の評価法（工学部 JABEE 小委員会と連携）、各教科の到達目標と JABEE 分野別要件との対応関係の整理、他の高等教育機関等から学生をプログラム履修者として編入させる場合の編入方法および編入基準の設定などである。月 1 回程度の JABEE を集中的に審議する教室会議に加え、今年度より、学科内に、教育改善計画委員会、教育システム評価委員会、自己改善評価委員会（業界、他大学、OB、地元自治体など外部委員を含む）を立ち上げ、C 科の専任教員は協力して申請への準備を鋭意進めている。

2007 年度の申請までに残された課題も数多くあり、関係各位のご協力をせつにお願いする。

## 「第11回FDフォーラム」開催のお知らせ

2005年11月1日(火)(特別教育期間)13:00~15:20に、寝屋川学舎5号館5階552教室において、第11回FDフォーラムを開催いたします。今回のFDフォーラムでは、「和歌山大学のFDを支える公開授業と検討会の実施」というテーマで、和歌山大学助教授吉田雅章氏に講演をお願いしています。

吉田氏は、地方の国立大学法人である和歌山大学において7年間にわたるFD活動に中心的存在として取り組まれてきました。本フォーラムでは、その暗中模索した活動内容ならびに分析・検討事項について報告していただきます。特に、授業アンケートだけではFD効果の薄い面を「公開授業の実施と検討会」によりカバーできるシステムを作られた苦労話などをお聞きし、摂南大学のこれからのFD活動の参考にさせていただきたいと思えます。なお、講演の後にはパネルディスカッションを開催し、議論を深めていただきたいと思います。本フォーラムへの多数のご参加をお待ちしています。

### スケジュール

2005年11月1日(火)	
寝屋川学舎5号館5階552教室	
13:00~13:05	学長挨拶
13:10~14:10	講演「和歌山大学のFDを支える公開授業と検討会の実施」 (和歌山大学助教授 吉田雅章氏)
14:20~15:20	パネルディスカッション

## 2005年度FD委員会メンバーの紹介

委員長 牛丸 與志夫(法学部)  
 副委員長 山根 敬三(経営情報学部) 荻田 喜代一(薬学部)  
 委員 熊谷 樹一郎(工学部) 木多 彩子(工学部) 高瀬 冬人(工学部)  
 一色 美博(工学部) 島田 洋子(工学部) 渡会 征三(工学部)  
 瀬戸 宏(外国語学部) 齋藤 安以子(外国語学部) 岩間 香(外国語学部)  
 紙 博文(経営情報学部) 牧野 幸志(経営情報学部) 上野 仁(薬学部)  
 三成 美保(法学部)  
 幹事 喜多 勤(教務課長)  
 オブザーバー 西田 修三(教務部長)

### FD委員会から

- 既にご案内しておりますが、摂南大学FD活動報告集を本年度中に発行する予定です。各学部・学科だけでなく、グループや個人でのFD活動も紹介することとしています。グループや個人でのFD活動もまだまだ件数が少ないので、続いて投稿していただきますようお願いいたします。
- 皆様からのご意見を紙面でも紹介したいと考えています。随時、メールで結構ですから、FD委員もしくは教務課([kyomu@ofc.setsunan.ac.jp](mailto:kyomu@ofc.setsunan.ac.jp))までお寄せ下さい。
- 次号のFDニュース第15号は2005年12月に発行の予定です。